

コミュニケーション力とは

～海外邦人巡回健康相談の本質



北京天衛診療所

歯科医師 **田中健一**

Kenichi Tanaka

なぜ相談者数が増加するのか

私は海外邦人医療基金が実施している巡回健康相談において歯科を担当している。この相談会は市町村で保健所が行う健診に近い。私は2004年から東南アジアをはじめとする8カ国・18都市で、年間1000人を超える邦人の相談を受けてきた。この相談会が始まった04年当初は、アジア諸国と日本の間には医療サービスにおいて歴然とした差があったこともあり、歯科の相談を受けるだけでよいと理解していた。しかし、今ではアジア各国の医療レベルは格段に進歩している。誤解を恐れずに言えば(日本の医療人からすると心情的に認めにくいだろうが)、日本をすでに凌駕している領域もあるのが現実である。が、この相談会への相談者数は増加している。なぜであろう？

1. 私のスキルが高いからか？

Noだ。一緒に巡回している日本を代表するそれはそれは素晴らしい小児科医師に対し、私はどこにでもいる平均的な歯科医だ。もっと言えば、50を過ぎたあたりから視力が落ちてきているため、平均以下だと自信をもって断言できる。

2. スキルの不足を補う高度な機器を持参しているからか？

アジアの病院はすでに高度な機器を有している。

3. 費用を取らないからか？

タダだから来るほど日本人は軽くない。

「日本のおいがした」の一言

では何か？ 私は日本語で相談・診察してもらえるからと考えていた。「日本語の通訳を常駐させている医院もあり、ありがたい」。さらに話を聞くと、「でも通訳を介すると、自分の言っていることが伝わっているか分からない」と言う邦人が少なからずいる。では日本語が100%通じれば良いのか？ 言っていることは全部分かってもらえ、所見も日本語だ。でも何かが足りない。相談会で私が担当したある40代の女性が、「田中先生はたった5分しか見てくれなかった」という不満のコメントを残して帰っていったと受付の方から聞いた。虫歯もないし、歯周病にもなっていない、問題ないから問題ないと私は言った。他に何を言えと言うんだ！ その時は不満に思ったが、私が相談を受ける上で問題提起になったことは事実である。

じゃあ名医でもない私に求めているものは何だ？ その答えを模索していた時に出会ったのは、ある小学生の男の子が健診後に発した何気ない一言だった。相談の帰りがけに「どうだった？ 優しい先生だったでしょ」という受付のおっさんのおべんちゃらに、「日本の臭いがした」と答えたというのである。隣り合わせた実施責